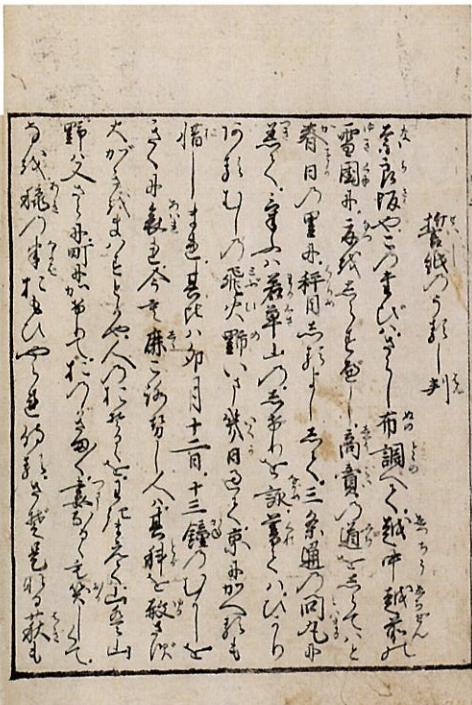


# やまととの名品

天理図書館



こうしょくいちだいおとこ  
好色一代男

井原西鶴著  
大坂 荒砥屋孫兵衛可心  
天和2年(1682)刊 8卷8冊  
縦26.5cm 横18cm

# 天理図書館

## 好色一代男

『好色一代男』は、江戸時代の文豪・井原西鶴（一六四二～一六九三）が初めて書いた小説で、主人公世之介の七歳から六十歳に及ぶ好色遍歴の一代記です。本作品の登場により、浮世草子という新たなジャンルが生まれました。

掲出の箇所は、奈良市の旧市街地である奈良町が舞台です。

世之介十七歳の時、見習いのため、当時奈良町の主要産業である「奈良晒（麻布）」を商う問屋へ遣わされました。しかし世之介は、商売には見向きもせず、當時隆盛であった木辻町の遊郭にて、昔なじみの遊女と再会し、懇ろとなりました。やがて二人

画家としても才能があり、挿絵も自ら描いたとされました。

また西鶴は、紙を取り交わし、愛を誓い合うという内容です。

現したかったのでしょうか。

木辻遊郭の風情、晒の商い方

す。世之介が、奈良町を象徴する鹿を指さし、若草山の麓で野がけを楽しんでいる図は、本文にそのシーンはありませんが、鶴の多才ぶりをうかがい知ることができます。ができる書ではないでしょう



東大寺南大門付近の晒場。「奈良晒」は、天日に晒して漂白することにより、高品質を保った。(『寧楽清勝絵巻』より)

(天理図書館 佐上圭太)

天理図書館のお知らせ Tel: 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)

○本書および『寧楽清勝絵巻』は、5月12日～6月9日開催の、天理ギャラリー167回展「奈良町－江戸時代の「観光都市」を巡る－」に出品します。

○4月の休館日: 18日・29日・30日